

IoT/M2Mフォーラム発足



会場の様子

現場発IoT、 先端事例を共有

IoT/M2Mフォーラムの第1回講演会が10月16日、芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催された。同会は製造現場での実践的なIoT/M2M活用法を追求する団体として同日発足した新たなフォーラム。講演会には研究者、コニカミノルタやホンダなど電機・自動車関連の大手メーカーのほか、工作機械メーカー、プラント事業

者、金型・部品事業者など約70社が参加した。フォーラムの代表を務める芝浦工業大学の岡本史紀名誉教授・工学博士は「IoT活用はIT側の話題だと思われがちだがそうではない。フォーラムで情報交換を活性化させながらモノづくり現場側からの実践的、先端的なIoT活用を大いに盛り上げていきたい」と話した。



IoT/M2Mフォーラムの
岡本史紀代表

講演会では早稲田大学リサーチイノベーションセンター研究戦略部門の稲田修一教授が「IoT導入事例にみるモノづくり変革とその進め方」について、国内外の最先端事例を紹介。「現場ではIoTに対して冷ややかに見る人が多いが、小さな成功を積み重ねて理解を促進し、同時に大きな成果につなげる案件を進めることが可能」（コニカ・スマートファクトリー）などと説明した。

続いてKMCの佐藤声喜社長が「製造業に於ける『現場発のIoT』」について講演。コニカミノルタが主要サプライヤーと構築中の新ケイレイツサプライチェーンについて「アルバイトでもできるレベルまで作業を単純化し、データ連携させることでサプライチェーンのQC DP（品質・原価低減・納期短縮・生産性効率化）一体管理を実現できる」など実践事例の数々を紹介した。

同フォーラムの第2回講演会は2月27日に芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催予定。講演は工作機械メーカー・エンシユウのIoTシステム、首都大学東京の楊明教授によるマイクロセンサ・金型内センシング技術などが予定されている。